

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

[illegible]

3	○望ましい集団づくりの実現 ～自分を磨き、ともに学び支え合う児童の育成～			児童同士、地域や専門家等との関りを通して学び合い、自己及び集団のよりよいあり方について考える児童の育ちを支援する。 ・自治活動	①リフレクションの更なる充実 ・個人やクラスのリフレクションを共有できる場を設定することにより、異学年における望ましい集団づくりを進める。 ・自他への理解を深めるために、児童相互の意味付けや価値付けを行う機会を増やす。	○児童アンケートで自己肯定感・自己有用感に関する質問において、肯定的評価を85%にする。 ○児童のリフレクションを分析し、自他への理解が深まれていると捉えることができる児童を85%以上にする。	□児童アンケートでの肯定的評価は、自己肯定感82.2%自己有用感84.2%であった。 □児童のリフレクションで、自他への理解が深まれていると捉えることができる児童は77.2%であった。	4	4	・「わくわくちゅうちゃんタイム」の充実を図り、クラスでリフレクションを共有し、児童相互の意味付けや価値付けを行えるような機会を設ける。 ・異学年でリフレクションを交流する時間を設け（学習発表会の練習やたてわり掃除等）、児童同士が価値づけられるようにする。					
	○信頼される学校づくり ～学ぶ実感・やりがいの実感～		継続	教職員のやりがい・充実感の向上を図る	①子どもと向き合う時間の確保 ・子どもと向き合う時間の確保につながる業務改善の具体に取り組む。（下校指導・会議の時間厳守等） ②カリキュラムの交流時間の設定 ・カリキュラムマネジメントの交流の時間を設け、効果的な学びを推進していく。 ③学校教育活動に対する保護者や地域の方の思いや意見を把握する。	○教職員の時間外勤務時間月45時間未満を100%にする。 ○教職員アンケート「子どもと向き合う時間の確保に努めている」、「充実感とやりがい」【個性が認められている】における肯定的評価を90%以上にする。 ○保護者アンケート「満足度」90%以上にする。	□暮会の時間を早めた。16:40⇒15:15 □教職員の時間外勤務時間は、教頭以外100%だった。 □教職員アンケートの肯定的評価は「子どもと向き合う時間の確保に努めている」88.9%、「充実感とやりがい」100%【個性が認められている】100%だった。 □保護者アンケート「満足度」の肯定的評価は97.3%だった。	3	4	・校務補助員に依頼できる業務を増やし、子どもと向き合う時間が増えるようにしていく。 ・学校だよりをカラー印刷にする等して、学校からの情報に対する保護者の興味や関心を増やしていく。 ・理事会等で学校教育活動についての報告を継続して行い、感想や意見をいただく機会を増やす。					

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。